

## 会社概要

平成27年3月31日現在

商号	デリカフーズ株式会社
英文社名	DELICA FOODS CO., LTD.
設立	平成15年4月1日
創業	昭和54年10月6日
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号
資本金	1,377,113千円
従業員数(連結)	300名(他、平均臨時雇用者数1,368名)

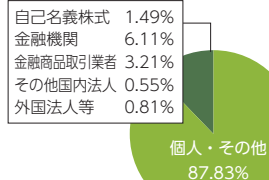
役員	
代表取締役社長	小笠原 真清
取締役会長	館本 勲武
専務取締役	杉 和也
常務取締役	大崎 善保
常勤監査役	野村 五郎
社外監査役	山口 隆
社外監査役	田中 清隆
会計監査人	仰星監査法人

## 株式状況

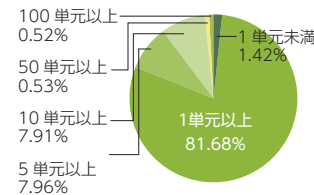
平成27年3月31日現在

発行済株式総数	7,436,000株
株主総数	10,599名
大株主	
館本 勲武	1,140,300株
館本 篤志	1,019,200株
大崎 善保	125,000株
デリカフーズ(自己株式)	110,502株
小笠原 真清	107,200株
デリカフーズグループ 従業員持株会	103,100株
岡本 高宏	100,100株
杉 和也	100,000株
野村 五郎	99,400株
(株)SBI証券	93,500株
竹内 啓	71,800株

【株主分布状況】



【所有株式数別分布状況】




平成27年1月27日付の公募増資及び平成27年2月24日付の第三者割当増資により、発行済株式の総数は、1,194,000株増加いたしました。

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711 (通話無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 (証券コード 3392)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL <a href="http://www.delica.co.jp/">http://www.delica.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### 【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

“Fresh & Speedy”  

**デリカフーズ株式会社**  
 〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



### 【お問い合わせ】

TEL 03(3858)1037  
 FAX 03(5851)1056  
<http://www.delica.co.jp/>

デリカフーズ

IR最新情報はHPをご覧ください。



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、大豆油などをリサイクルして作られたベジタブルインクを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

# 12

## 第12期 事業報告書

平成26年4月1日▶平成27年3月31日

INVESTOR RELATIONS

# DELICA REPORT

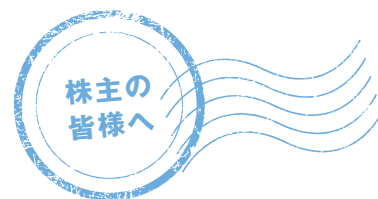
[デリカレポート]



デリカフーズ株式会社  
 DELICA FOODS CO., LTD

東証1部 証券コード 3392

# TOP MESSAGE



代表取締役社長

**小笠原 真清**  
(おがさわら ますみ)



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。当連結会計年度は売上高・各利益とも過去最高額を達成するとともに、東京証券取引所市場第一部銘柄への指定替えを果たすことができました。これもひとえに株主の皆様のご理解、ご支援の賜物と、重ねて心より御礼を申し上げます。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、主な販売先である外食産業を中心に、消費税増税後も比較的堅調に売上が推移していましたが、夏場以降に食品への異物混入事故が注目を集め、一部の業態では前年度を下回りました。また、原料価格の高騰や人手不足が続くなど依然として厳しい状況が続いております。

当連結会計年度における重点施策のうち、「拠点拡大による更なる売上獲得」については、連結子会社東京デリカフーズが新たに仙台事業所を開設いたしました。また、前連結会計年度に竣工した東京第二FSセンターの順調な

稼働が売上向上につながりました。「野菜メニュープロジェクトによる提案型営業の推進」では、野菜の機能性研究の成果を活かして、付加価値の高いメニューを開発し外食産業に提案することで野菜の取扱量の増大を図りました。「農産物マーチャンダイジングと産地開発」については、“野菜の目利き”を育成し、優良産地の開発を通じて原価低減や安定供給を目的として展開いたしました。

これらの施策の結果、当連結会計年度における売上高は28,042百万円(前期比5.3%増)、営業利益は746百万円(前期比48.6%増)、経常利益は765百万円(前期比52.0%増)、当期純利益は489百万円(前期比77.2%増)となりました。

今後もグループの強みを活かし、業績の向上に尽力するとともに、日本の農業の発展と国民の健康増進に貢献してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きのご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 業績の概況

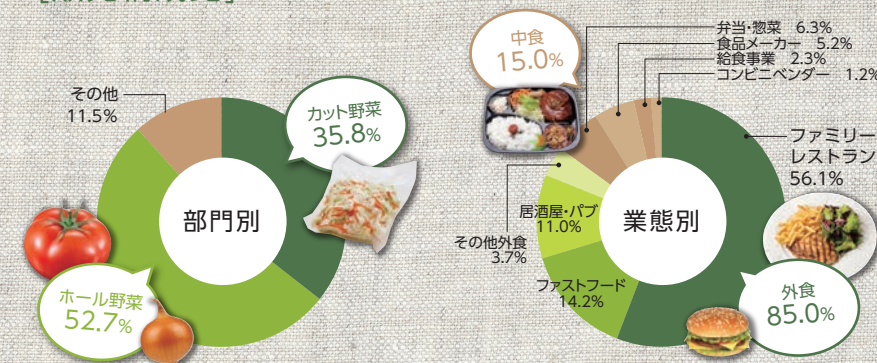
売上高ならびに各利益とも創業以来の最高額を更新。

当連結会計年度は、拠点拡大や提案型営業の推進、優良産地の開発などの経営施策が奏功し、中期経営計画の第一段階「FIRST PHASE SF2015」の目標である売上高270億円・経常利益7.5億円を超え、売上高並びに営業利益・経常利益・当期純利益の各利益とも創業以来の最高額を達成いたしました。

### 当連結会計年度の業績

売上高	28,042百万円 (前期比5.3%増)
営業利益	746百万円 (前期比48.6%増)
経常利益	765百万円 (前期比52.0%増)
当期純利益	489百万円 (前期比77.2%増)
1株当たり 当期純利益	78.38円
総資産利益率(ROA)	3.26%
株主資本利益率(ROE)	8.65%

### 【販売構成比】



加工しない野菜そのものを「ホール野菜」、開封後すぐに食べられる状態に加工したパッケージ野菜を「カット野菜」と呼んでいます。外食産業を中心に、近年ではカット野菜のニーズが高まっています。

外食・中食という大きく2つの業態があり、全体の8割以上は外食産業向けで占められています。全体の5割以上をファミリーレストラン、次いでファストフード、居酒屋・パブ向けの順になっています。

## 取締役のご紹介



すぎ かずや  
杉 和也

デリカフーズ株式会社  
専務取締役  
大阪デリカフーズ株式会社  
代表取締役社長



おおさき よしやす  
大崎 善保

デリカフーズ株式会社  
常務取締役  
東京デリカフーズ株式会社  
代表取締役社長  
名古屋デリカフーズ株式会社  
代表取締役副社長



たちもと いさたけ  
館本 勲武

デリカフーズ株式会社  
取締役会長



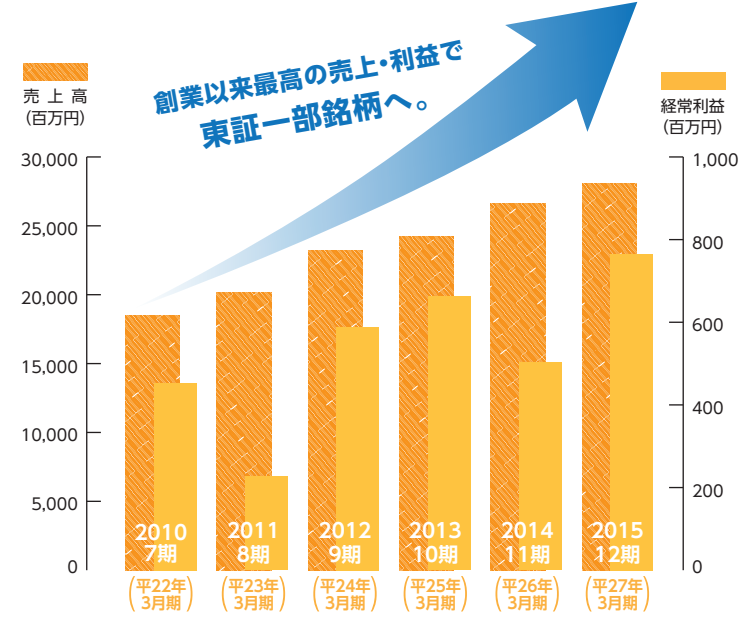
# 指定替えにより新たなステージへ 東京証券取引所市場 第一部銘柄に指定

平成26年12月17日、当社の株式は東京証券取引所市場第一部銘柄に指定されました。今後も株主様および取引先様をはじめとした、多くの関係者の皆様のご期待に応えるため、「日本農業の発展」「国民の健康増進」という経営理念のもと、業績拡大と企業価値の更なる向上に努めてまいります。

東証第一部指定のセレモニー後、当社代表取締役の小笠原 真清がSTOCK VOICEに登場。個人投資家に向けたインタビューに答えました。



このたびの指定替えの立役者は、平均年齢38歳の若手チーム。貴重な経験となりました。



## 創業から東証一部銘柄指定まで 35年間のあゆみ (昭和54年10月～平成26年12月)

- S 54年10月** 創業者館本 勲武(現 取締役会長)が名古屋市中区にデリカフーズ(株)設立(現 名古屋デリカフーズ(株))
- S 59年12月** 東京都足立区に東京デリカフーズ(株)設立
- H 2年 5月** 大阪府茨木市に大阪デリカフーズ(株)設立
- 9月** 神奈川県大和市に東京デリカフーズ(株)横浜工場稼働
- H 6年 6月** 兵庫県明石市に大阪デリカフーズ(株)神戸工場稼働
- H 9年 9月** デリカフーズ本社を名古屋市中川区に移転  
名古屋デリカフーズ(株)に名称変更  
かの里工場を稼働

- H 14年 1月** 横浜工場を移転(現 神奈川事業所)
- 5月** 愛知県海部郡十四山村(現 愛知県弥富市)に名古屋デリカフーズ(株)子宝工場を稼働
- 12月** 大阪デリカフーズ(株)本社を移転
- H 15年 4月** デリカフーズ(株)(持株会社)設立
- H 16年 4月** デザイナーフーズ(株)を完全子会社化
- H 17年12月** 東京証券取引所市場第二部に上場
- H 19年 3月** 大阪デリカフーズ(株)神戸工場を兵庫県加古郡稲美町へ移転 兵庫工場に改称
- H 22年 6月** 東京デリカフーズ(株) 東京FSセンター稼働
- H 24年 3月** 東京デリカフーズ(株) 九州事業所新設稼働
- H 26年12月** 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定

## <東証一部上場企業として>

### 青果物流通業の トップブランドとして 更なる企業価値向上を目指します。

当社は昭和54(1979)年の創業から平成17(2005)年の東証第二部上場、このたびの同第一部への指定替えなどを経て、青果物流通業における唯一の東証一部上場企業となりました。業界屈指の高利益率を維持しながら、今回の指定替えによりさらに信用力を高め、競合他社との差別化を図ってまいります。

### 公募増資および第三者割当増資による 新株式発行で、拠点増強のための 設備投資資金を調達いたしました。

中期経営計画に定める数値目標を達成するため、当連結会計年度において今後予定している新工場の建設資金として、公募増資および第三者割当増資を行い、総額1,234百万円の資金を調達いたしました。この結果、発行済株式の総数は1,194千株増加し(うち公募増資による新株発行1,050千株、第三者割当増資による新株発行144千株)7,436千株となりました。

発行条件	発行新株式数	1株当たり払込金額	調達資金	払込期日
公募増資(一般募集)	1,050千株	1,034.1円	1,085百万円	平成27年1月27日
第三者割当増資 <sup>(※)</sup>	144千株	1,034.1円	148百万円	平成27年2月24日
合計	1,194千株	—	1,234百万円	—

※オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資



ファーム トウ ウェルネス  
**Farm to Wellness倶楽部の活動をご紹介します**  
**相互交流で、農業の発展と国民の健康に貢献します。**

平成27(2015)年4月で、設立から6周年を迎える「Farm to Wellness倶楽部」。全国の生産者と外食・中食企業等の実需者とともに、医・食・農・工の連携による情報提供や相互交流の場として、様々な活動を通じて農業の活性化や人々の健康に向けた取り組みを続けてきました。ここではその活動の一部をご紹介します。

活動その1

知識とノウハウを共有する  
産地見学ツアーを実施



IT化や機械化など先進的な農業を実践し、成果を挙げている農家を会員が訪問し、最新農法を学ぶとともに会員同士の交流を深める機会となっています。これまでの取り組みや青果物に対する思いなどを、レクチャーや座談会形式で共有するなど農家を含め会員間のネットワークが拡大しています。

活動その2

農家の野菜や土壌を分析し  
数値化する“健康診断”



十分な栄養素があるか、有害物質が含まれていないかなど、農家の野菜や土を送付してもらい、安全性・美味しさ・健康影響(機能性)などを分析するサービス。糖度・栄養素・抗酸化力など様々な角度から、保有する2万5千以上の検体データと比較し、改善のアドバイスをしています。

Farm to Wellness倶楽部とは

デリカフーズが主催する、生産者と実需者をつなげるネットワーク組織です。現在は法人個人会員合わせて約280名の会員がいます。会長は当社の杉 和也専務取締役。

活動その3

医・食・農・工が連携する  
専門家によるセミナーを開催



健康志向など食のトレンド情報の提供、研究テーマの発表、識者による講演など専門家が講師となるセミナーを定期的で開催しており、会員は優先して受講することができます。

活動その4

月1回のメールマガジンで  
会員向け有益情報を配信



農業・健康に関する時事情報、会員農家の取り組み、野菜を活用した外食の店舗紹介、研究成果の掲載など「知って得する情報」をメールで提供しています。

活動その5

農家・会員企業に向けた  
ニュースレターを年1回発行



農家へのインタビューや知っておくべき野菜の知識、当社の取り組みや研究発表、野菜を使ったレシピ情報など、もりだくさんのテーマで年1回お届けしています。

Farm to Wellness倶楽部は会員を募集しています。



会員区分	対象者	年会費(税別)
個人会員	生産者・青果物の実需者	1万円
法人会員	その他 ※種苗/肥料/農業関係など	3万円
一般会員	一般消費者の方々	5千円

詳細はWebサイトをご覧ください  
<http://www.fw-club.jp/>  
 担当：吉永・清水[デリカフーズ(株)内]

## デリカフーズの事業モデル

# 野菜の生産者と食の提供者をつなぐ「業務用の八百屋」

野菜の仕入・加工・物流をワンストップで担うデリカフーズは、「業務用の八百屋」が事業コンセプトです。全国各地の契約産地から仕入れた野菜を加工し、コールドチェーンを通じて新鮮な状態で全国の店舗にお届けしながら、日本の農業の発展と国民の健康増進に貢献してまいります。

### POINT 分析力

- 業界トップクラスの研究開発部門
- 2万検体を超える分析データ



野菜の機能性研究



## デリカフーズ

業界でも類を見ない24時間・365日体制で常にお客様をサポートしています。「Fresh & Speedy」をキャッチフレーズに新鮮でおいしい野菜の流通を追求してまいります。

### POINT ブランド力

- 青果物流通企業唯一の東証一部上場企業
- 業界屈指の利益率



直営拠点とエリア協力企業で日本全国1万店舗にデリバリ

- 茨木工場(大阪府茨木市)
- 兵庫工場(兵庫県加古郡)
- 奈良工場(奈良県磯城郡)

大阪デリカフーズ(株)

持株会社  
デリカフーズ(株)

東京デリカフーズ(株)

デザイナーフーズ(株)

名古屋デリカフーズ(株)

- 東京FSセンター
- 第二FSセンター(東京都足立区)
- 保木間センター(東京都足立区)
- 大田センター(東京都大田区)
- 三郷センター(埼玉県三郷市)
- 神奈川事業所(神奈川県大和市)
- 九州事業所(福岡県古賀市)
- 仙台事業所(宮城県仙台市)
- 福島工場(福島県伊達市)



カット野菜工場

### POINT 調達力

- 全国に広がる契約産地
- グループ間のバックアップ



## 野菜の生産者

契約産地など各地で生産される新鮮で高品質な野菜を安定的に仕入れられます。契約産地は年々広がっており、研究機関や行政との共同開発で土壌改良などにも力を注いでいます。

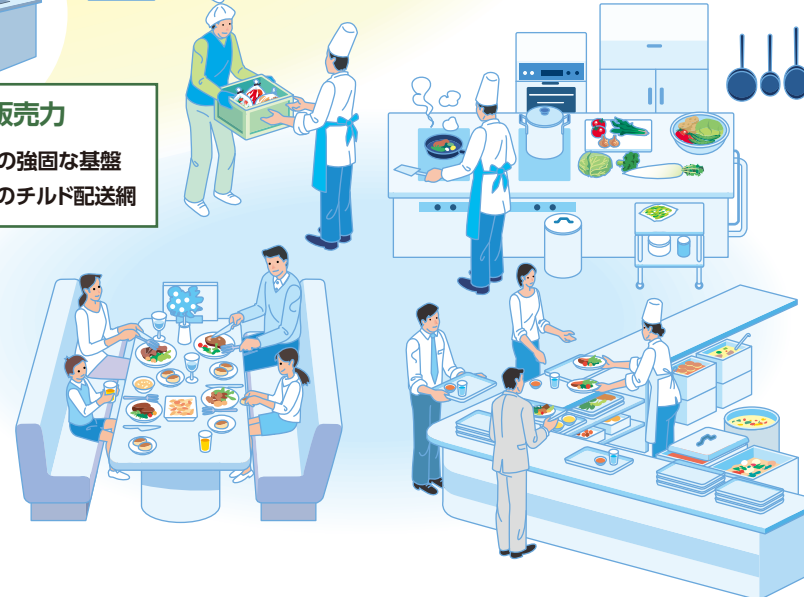


### POINT 販売力

- 大都市部での強固な基盤
- 365日体制のチルド配送網



出荷センター



## 食の提供者

ファミリーレストラン・居酒屋・ファストフードなどの「外食」、コンビニエンス・惣菜・お弁当などの「中食」、社員食堂などがお客様。野菜の生理に合わせたチルド配送網で全国1万店舗に様々な野菜をお届けしています。

デザイナーフーズ株式会社  
Farm to Wellness倶楽部

## フード・アクション・ニッポン アワード2014で6年連続で入賞



国産農作物の消費拡大を推進する同アワードにおいて、デリカフーズが主催するFarm to Wellness倶楽部による「旬の国産野菜を利用した機能性サラダ（抗酸化力等）の開発～表示による新たな販売方法～」が、研究開発新技術部門で入賞しました。旬の野菜の機能性を測定し、季節ごとのサラダを提案。最適な加熱方法と味付け、消費者に分かりやすい表示方法で販売したものです。今回で、受賞者中唯一の6年連続の受賞となりました。



大阪デリカフーズ株式会社  
奈良工場（奈良FSセンター）

## 近畿圏初のFSモデル工場が竣工 コンシューマ向け商品にも対応



平成27年4月に竣工した大阪デリカフーズの奈良工場（奈良県磯城郡田原本町）は、同社で3番目、デリカフーズグループの中でも最新鋭の工場です。近畿圏で初めてのFSモデル工場（カット野菜工場、出荷センター、品質管理機能を併せ持つ青果物流通の複合施設）となり、年間20億円程度の生産能力を有しています。また、コンシューマ向け商品の生産にも対応しています。



東京デリカフーズ株式会社  
名古屋デリカフーズ株式会社

## 東京・名古屋でも 新工場建設計画が進行中です



大阪デリカフーズの奈良工場に続き、東京デリカフーズと名古屋デリカフーズでも新工場建設計画が進んでいます。これは、増え続けるカット野菜の需要に対応するためのもので、中期計画の拠点増設施策の一環です。

東京デリカフーズ株式会社

## 三郷センターを移転し、規模を拡張

平成26年12月、大口顧客との取引拡大に伴って手狭になっていた三郷センター（埼玉県三郷市）を移転いたしました。新センターでは高速仕分けを実現するオートソーターが利用可能で、東京FSセンターに匹敵する出荷能力が期待されています。

東京デリカフーズ株式会社  
エフエスロジスティクス株式会社

## 物流子会社を設立し、 新たな需要を開拓します

平成26年10月、東京デリカフーズは物流子会社として、エフエスロジスティクス(株)を設立しました。365日24時間体制のチルド配送により付加価値の高いサービスを提供し、専門的物流分野での需要を開拓してまいります。



FSL F.S. Logistics co., Ltd

名古屋デリカフーズ株式会社

## 食品衛生優良施設として 表彰されました

平成26年11月、名古屋デリカフーズ子宝工場が平成26年度食品衛生優良施設として、愛知県知事より表彰を受けました。





連結貸借対照表 (要旨)

単位: 千円

資産の部	第11期	第12期
	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,030,543	5,852,809
売掛金	2,877,613	3,130,683
有価証券	15,161	—
商品及び製品	75,324	76,759
仕掛品	2,694	3,842
原材料及び貯蔵品	46,756	43,314
繰延税金資産	44,256	64,460
その他	127,623	91,459
貸倒引当金	△7,672	△6,039
<b>流動資産合計</b>	<b>6,212,301</b>	<b>9,257,290</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	2,481,602	2,402,190
土地	3,104,391	3,249,504
その他 (純額)	958,115	1,315,994
有形固定資産合計	6,544,109	6,967,688
無形固定資産		
その他	33,254	37,550
無形固定資産合計	33,254	37,550
投資その他の資産		
投資有価証券	341,388	248,925
その他	241,120	173,454
貸倒引当金	△19,817	△6,276
投資その他の資産合計	562,691	416,103
<b>固定資産合計</b>	<b>7,140,055</b>	<b>7,421,342</b>
<b>資産合計</b>	<b>13,352,357</b>	<b>16,678,633</b>

単位: 千円

負債の部	第11期	第12期
	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>流動負債</b>		
買掛金	1,507,747	1,579,228
短期借入金	640,000	760,000
1年内返済予定の長期借入金	622,746	657,320
未払法人税等	70,861	221,645
未払金	784,815	1,160,091
その他	178,043	194,220
<b>流動負債合計</b>	<b>3,804,214</b>	<b>4,572,506</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	4,407,064	5,300,978
その他	277,497	246,250
<b>固定負債合計</b>	<b>4,684,561</b>	<b>5,547,228</b>
<b>負債合計</b>	<b>8,488,776</b>	<b>10,119,734</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金 1	759,755	1,377,113
資本剰余金 1	1,552,318	2,164,570
利益剰余金	2,597,488	3,002,190
自己株式	△98,206	△50,217
<b>株主資本合計</b>	<b>4,811,356</b>	<b>6,493,657</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他の有価証券評価差額金	41,906	61,013
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>41,906</b>	<b>61,013</b>
<b>新株予約権</b>	<b>10,318</b>	<b>4,228</b>
<b>純資産合計</b>	<b>4,863,581</b>	<b>6,558,898</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>13,352,357</b>	<b>16,678,633</b>

	第11期	第12期
1株当たり当期純利益 (円)	46.41	78.38
1株当たり純資産額 (円)	805.40	894.77
自己資本 (百万円)	4,853	6,554
自己資本比率 (%)	36.3	39.3



ポイント 1 資本金及び資本剰余金

平成27年1月27日の公募増資並びに平成27年2月24日の第三者割当増資により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ617,357千円増加いたしました。



連結損益計算書 (要旨)

単位: 千円

	第11期	第12期
	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
<b>売上高</b>	<b>26,619,606</b>	<b>28,042,469</b>
<b>売上原価</b>	<b>20,259,544</b>	<b>20,940,537</b>
<b>売上総利益</b>	<b>6,360,062</b>	<b>7,101,931</b>
販売費及び一般管理費	5,858,039	6,355,907
<b>営業利益</b>	<b>502,023</b>	<b>746,023</b>
営業外収益	60,998	89,589
営業外費用	59,221	69,849
<b>経常利益</b>	<b>503,800</b>	<b>765,763</b>
特別利益 2	1,243	41,673
特別損失 3	25,966	13,957
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>479,077</b>	<b>793,478</b>
<b>法人税等合計</b>	<b>203,069</b>	<b>304,414</b>
<b>当期純利益</b>	<b>276,007</b>	<b>489,064</b>



連結株主資本等変動計算書 (要旨)

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

単位: 千円

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	759,755	1,552,318	2,597,488	△98,206	4,811,356	41,906	41,906	10,318	4,863,581
当期変動額									
新株の発行	1 617,357	1 617,357			1,234,715				1,234,715
剰余金の配当			△84,362		△84,362				△84,362
当期純利益			489,064		489,064				489,064
自己株式の処分		△5,105		4 47,989	42,884				42,884
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						19,107	19,107	△6,090	13,016
当期変動額合計	617,357	612,252	404,701	47,989	1,682,300	19,107	19,107	△6,090	1,695,317
当期末残高	1,377,113	2,164,570	3,002,190	△50,217	6,493,657	61,013	61,013	4,228	6,558,898



ポイント 2 特別利益

特別利益の主な内訳は、投資有価証券売却益24,524千円、保険解約返戻金16,967千円などとなっています。



ポイント 3 特別損失

特別損失の主な内訳は、投資有価証券評価損2,683千円、店舗閉鎖損失8,035千円などとなっています。



ポイント 4 自己株式

当社は、当連結会計年度期首に216,102株の自己株式を保有していましたが、ストック・オプションの行使により105,600株減少し、当連結会計年度末の自己株式は110,502株となっております。

# 機能性表示時代の デリカフーズの R&D

Research development



## 最近よく耳にする 機能性表示食品制度とは？

**食**品の持つ力を表示できる制度として2015年4月からスタートした機能性表示食品制度。例えば「トマトに含まれるリコピンには抗酸化作用がある」など、安全性や機能性について一定の条件を満たせば、企業や生産者の責任で表示できるようになります。農産物の品質評価基準「デリカスコア※」をもとに、消費者ニーズに合った評価指標としてブラッシュアップ。機能性表示により野菜の新たな価値として評価する仕組みづくりに貢献します。



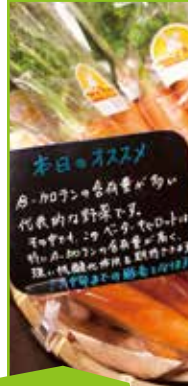
## 産学官11機関と連携し、 革新的な生産技術体系の確立へ

民間企業、大学、地方自治体など11機関と連携し、農林水産省の「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業」の採択を受けました。トマト等の栽培環境と品質との関連性を明らかにし、農業ICT技術などで効率的に生産できる方法の確立により、グローバル競争力の強化を目指します。



## 野菜摂取による生体内の 抗酸化力評価の簡便法を開発

農林水産省による公募研究の採択を受け、新たな食品の機能性表示に向けた、生鮮食品の機能性評価法開発と実証を行います。機能性表示には臨床試験の期間やコストがネックとなっていますが、これを解決するため、抗酸化力の簡便な評価方法を開発し実証してまいります。



デリカスコアとは？

「デリカスコア」とは、当社グループが提唱する新しい農産物の評価基準です。安全・栽培・成分・流通の各分野において合計19の評価項目で野菜を評価しています。

## 農林水産省などの研究開発事業に採択

## デリカスコアを基盤とした 野菜・コメの総合的品質指標

農林水産省の「革新的技術創造促進事業（異分野融合共同研究）」公募（補完）研究の採択を受けました。デリカスコア※を元に、トマトを中心とした野菜や米に関するデータ活用法や指標化、消費者への伝達方法など品質を「見える化」する総合的品質指標を開発します。

産地  
レポート  
vol.4

デリカフーズに野菜を納入していただいている生産者のみなさんをご紹介するコーナーです。  
農事組合法人 耕人会  
[群馬県]

群馬県吾妻郡長野原町大字  
北軽井沢1353-57



耕人会では毎年デリカフーズの社員研修の受け入れを行っています。



標高1,000mの群馬県北軽井沢で高原野菜づくりに従事する「耕人会」。当初3名からスタートし、現在は8名に。主にレタスとキャベツを栽培し、農業・化学肥料の減量化を心がけ、自然環境を考えたこだわりの野菜づくりを目指しています。

## 真空予冷システムの導入で新鮮な高原野菜を供給。 一年中農産物が作れる安定した農家を目指しています。

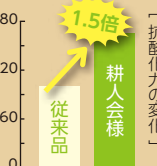
農事組合法人耕人会では主にレタスとキャベツを生産しています。2月下旬に種をまき、レタスは5月末、キャベツは6月末に収穫を開始。5月から10月の繁忙期には朝4時半に起床し、夜7時頃まで作業を続けます。葉が劣化しやすいレタスは、日中に比べて涼しい早朝に収穫します。2005年に真空予冷システムを導入してからは鮮度を落とすことなく、野菜をお届けすることが可能になりました。現在、収穫高の6~7割をデリカフーズに納めています。各組合員の方が積極的に勉強会に参加するなど品質向上への熱意が伝わってくる生産地です。



研究開発室 武井の  
産地の逸品紹介  
【レタス】



耕人会様のレタス類の特長は強力な抗酸化力をもつ栄養素βカロテンの含量が多いことです。100gあたり2000μg以上のβカロテンを含有していることもあり、その抗酸化力は従来品の約1.5倍にのびます。ミネラルにこだわった土作りを行い、中身栄養素に注目したレタス栽培を実践している結果が出ているようです。



「抗酸化力の変化」